



ほっと通信(令和3年9月)



子供は「ほめられる」ことで自信をもつことができます。
特に、困り感のある子供たちにとっては、周りの大人が小さな「できた！」を見つけ、伝え方を工夫しながら上手にほめることが大切です。
以下の『**子供が伸びる「ほめ方・言葉かけ」～10の原則～**』を参考にして
みてください。



子供が伸びる「ほめ方・言葉かけ」～10の原則～

① **子供自身が「ほめられている」とわかるように伝えましょう。**

- ・できるだけ近くでシンプルにほめる。
- ・視線を合わせ笑顔でほめる。
- ・言葉の発達が未熟な場合は、「」や「OKサイン」などを利用する。

② **すぐにその場でほめましょう。**

- ・「あの時は…」「あそこでは…」といった表現は使わず、できたその場でほめる。



③ **小さな成果を見逃さないようにしましょう。**

- ・「できて当たり前」ではなく、1つの成果を認めほめる。

④ **言葉や態度ではっきりほめましょう。**

- ・言葉のトーンや表情を変えたり、少し大げさな態度で「ほめているよ」という気持ちを伝えたりする。

⑤ **得意分野を見つけてほめましょう。**

- ・「できないこと」よりも「できること」を見つけて、しっかり認めてほめる。

⑥ **ほめ言葉と一緒に「ごほうび」も考えてみましょう。**

- ・言葉よりごほうびが効果的な場合もある。
(例)「できた」→「キラキラシールがもらえる」

⑦ **毎日ほめましょう。**

- ・毎日の生活の中でやる気を引き出すように、何度もほめる。

⑧ **勉強以外のこともほめましょう。**

- ・子供が興味をもっていること(もの)に共感し、できることを見つけてほめる。

⑨ **「がんばっているとき」を見逃さないようにしましょう。**

- ・結果だけでなく、結果において取り組んでいる努力をほめる。

⑩ **ほめるところを見つけ出しましょう。**

- ・子供を様々な角度から見つめ、部分的に成功していることを見つけてほめる。

